

どこでもメモの要件

2004年3月号で、歩いているときや電車に乗っているときでも、携帯電話を使ってアイデアなどをメモしたり検索できるようにする“コマンドメール”というシステムを紹介しました。そのときにも書きましたが、メモをとるためのシステムには次のような機能が必要です。

- いつでもどこでも使える。
- 情報を簡単に参照できる。
- 追加や修正が簡単におこなえる。
- データを安全に確保できる。

最近モバイル/ユビキタス環境で計算機を使う機会が増えたので、

- PC やインターネットが使える
- PDA は使える
- 携帯電話しか使えない

といった、さまざまな状況が考えられます。そこで、どんな場合にも簡単にメモの読み書きができるようにするために、以下の方針を立てることにしました。

- PC とインターネットが使えるときは Wiki でデータを読み書きする。
- インターネットが使えないときは PC のローカルデータを利用する。
- PDA ではデータのサブセットを持ち歩く。
- 携帯電話しか持っていない場合でも、最低限のアクセス手段は用意する。

3月号では、コマンドメールを使って携帯電話から Wiki

データを読み書きする方法について詳しく述べました。一方、PC を利用する場合、ローカルなデータとして保存するためにどのようにメモをとるかについても、じつはいろいろな工夫ができそうです。

今回は、PC 上で効率よくメモをとったり、インターネット上の Wiki データと同期させる方法を紹介します。

PC 上でのメモ管理

一口に“PC でメモをとる”といっても、その方法は無限といってよいほど考えられます。題名に“情報整理術”などという文字列が入っている本を読むと、PC を情報整理に活用する方法が書かれていますが、いろいろな条件を考えると、完璧なものはなかなかみつかりません。一見したところでは、内容に応じていくつかのディレクトリを作り、項目ごとに異なるファイルを作ってメモを書くのがもっとも単純なように思えます。しかし、この方法は、ちょっとしたメモをとる場合にはあまりうまくいきません。適切なファイル名や分類法を考えるのは大変ですし、苦労して付けたファイル名を忘れるともあるからです。結果として、専用のメモ・アプリケーションを使ったり、つねに同じ名前のファイルにメモをとる人が多いようです。

単一のテキストファイルによるメモ管理

このような問題について、高林 哲氏は 2002 年 1 月号の「UNIX のメモ技術」という記事で詳しく考察しています¹。試行錯誤の結果、高林氏は ChangeLog 形式のテキストファイルをメモに利用する方法を提唱しました。

¹ <http://namazu.org/~satoru/unimag/1/>

図 1 ChangeLog ファイルの例

```
2000-12-09 Satoru Takabayashi <satoru@namazu.org>

    * src/mksary.c (parse_options): New option: --index, -i.

2000-12-08 Satoru Takabayashi <satoru@namazu.org>

    * src/Makefile.am (sary_SOURCES): Simplified.
```

ChangeLog というのは、もともとはプログラムの開発履歴を記録するためのテキスト形式で、図 1 のように日付と変更項目を一定の書式で箇条書きにして並べたものです。この例ではソースコードの修正履歴が記述されていますが、プログラム開発とは直接関係のない日記やメモも同じ形式で記述しておけば、ChangeLog ファイルやテキストファイルを扱うためのさまざまなツールが使えるメモ管理にも役立つというわけです。

メモ管理に ChangeLog を使うというアイデアは富士通の山下達夫氏が考えたものだそうで、現在は多くの人がこの方式を利用しているようです。山下氏は、ChangeLog メモを Web ページに変換する「Chalow」というツール²を公開しています。山下氏は、Web 上で blog に似た日記ページを公開していますが、これらのページ³はすべて Chalow により生成されたものです。Chalow では、ChangeLog 形式で書いた日記情報を blog ふうのページとして公開できるようになっており、トラックバックやコメント機能も用意されています。変換されたページを見ると、ChangeLog ファイルをもとに生成されたとは思えません (tDiary⁴のスタイルファイルが利用できます)。

IT コンサルタントの橋本大也氏は、PC 上でのメモ管理の要件について以下のように述べています⁵。

- いつも使っているテキストエディタでなくてはいや。
- メモを作成し終えるまでの総ステップ数が少なく、動作が軽い。
- ファイル名を考えたり、題名を付けるといった心理的ハードルが低く、面倒に感じない。
- メモが散逸せず、再利用が容易かつ効率的にできる。

これらの点を満たすシステムを模索した結果、橋本氏も

2 <http://nais.to/~yto/tools/chalow/>
3 <http://nais.to/~yto/clog/>
4 (<http://www.tdiary.org/>)
5 <http://www.ringolab.com/note/daiya/archives/001889.html>

最近になって ChangeLog/Chalow を導入し、かなり満足が得られているということでした。

ChangeLog 方式の問題点

ChangeLog 方式はこのように多くの人たちに愛用されていることもあり、私もしばらくこの方法を試していたのですが、残念ながら私にはうまく使いこなせませんでした。たしかに、ChangeLog 方式はメモ情報が一本化でき、シンプルだという点でたいへん有用です。しかし、複数の計算機を使い分ける場合や PDA や携帯電話との連携を考えると、どうも最善の方法ではないように思えます。

つねに決まった 1 台の計算機を利用しているのならばよいのですが、状況に応じて複数の計算機を使い分ける場合には、ChangeLog ファイルの同期をとる必要があります。メモを書いたらかならず CVS などで同期をおこなうようにすればよいのですが、これは忘れることもありまじし、ネットワーク環境がない場所ではどうにもなりません。私自身も、同期に失敗して ChangeLog ファイルを消してしまったことがあります。また、メモを携帯電話や PDA で読み書きするには、ChangeLog をなんらかの形式に変換する必要もあります。こんなわけで、あらゆるメモを ChangeLog に一本化することは、私には容易ではありませんでした。

いろいろな環境でメモをとった場合も、同期などの工夫をせず、最終的にうまく一本化できる方法があれば、そのほうがよさそうです。メモをとる場面を考えてみると、

- オフィスのマシン
- 外出中に携帯電話
- 電車のなかでノート PC
- 会議中に PDA
-

といったように、場所も違えばマシンも違うことが多いのではないのでしょうか。このような場合も、最終的に 1 つの

メモの集合として統合され、これらすべてのマシンから参照可能になるのが理想的でしょう。

日付・時刻付きメモ

ChangeLog のようなテキストファイル形式は、なんといても手軽で便利です。この点は残し、いろいろな環境でメモをとりやすくするため、

- 日付と時刻を記録したテキストファイルでメモを作成し、あとで時刻順にソートして Wiki データに変換して扱う

という方法を考えて実践しています。たとえば foo というマシンを使っている場合は、foo:/home/masui/Memo.foo というファイルに以下のような形式でメモを書きます。

```
2004/7/10 19:00:27
マシンfooに書いたメモ。
```

一方、別の場所にある bar というマシンに向かっているときは、bar:/home/masui/Memo.bar というファイルに以下のようにメモを書きます。

```
2004/7/10 19:25:51
続けてマシンbarにメモを書く。
2004/7/10 19:23:11
今度はマシンbarにメモを書く。
```

新しいメモほどファイルの先頭にくるようにしていますが、時刻が正しく記述されているかぎり、順番は任意です。

このように独立にメモを書いたあとで、これらのファイルを Web サーバーに送り、

```
20040710190027.txt
20040710192311.txt
20040710192551.txt
```

のように別々のテキストファイルを生成します。さらに、これらをまとめて Wiki ページに変換すれば、異なる環境で作成したメモをまとめて 1 つのメモページとして生成できるというわけです。それぞれのメモには日付と時刻を示すファイル名が付いているため、異なる場所で別々に生成された場合も、あとで簡単に 1 つにまとめることができます。メモファイル名はマシンごとに異なっているので、マシン間でファイルをコピーしても誤って上書きするようなことはありません。

携帯電話でメモを書いた場合も、3 月号で紹介したコマンドメール・システムを利用して同じデータを生成するよ

図 2 日付と時刻を挿入するプログラム

```
(defun insert-time ()
  (interactive)
  (let ((tim (decode-time (current-time))))
    (insert (format "%4d/%d/%d %02d:%02d:%02d"
                    (nth 5 tim) (nth 4 tim)
                    (nth 3 tim) (nth 2 tim)
                    (nth 1 tim) (nth 0 tim))))
  ))
(global-set-key "\C-xt" 'insert-time)
```

うにしておけば、メモをとった場所にかかわらず、サーバー上では同様に扱うことができます。

メモ書きシステムの実装

Emacs でメモを書く

私は、UNIX でも Windows でも Windows CE でも Emacs を利用しているので、前述のようなメモ書きを支援するツールを Emacs 上で作成することにしました。

まず、図 3 のようなプログラムで、日付と時刻(タイムスタンプ)を簡単に入力できるようにします。デフォルトの設定では、Emacs 上で“Ctrl-x t”を入力すると、カーソル位置に現在の日付と時刻が挿入されます(プログラムや文書の作成中にタイムスタンプを書き込んでおくと、あとで役立つ場合があります)。

さらに、図 3 のプログラムを使えば、“Ctrl-x m”の入力によって~/Memo.bar のような名前のファイルを呼び出してメモの編集を開始することができます。この Emacs Lisp プログラムでは、アウトライン・モードを利用して、古いメモについては日付と時刻、そして本文の 1 行目だけを表示するようにしています。

さきほどの状態から、マシン bar 上の Emacs で“Ctrl-x m”と入力すると Memo.bar に新しいエントリが追加され、2 行目からメモが書ける状態になります。

```
2004/7/15 19:33:28
```

```
2004/7/15 19:25:51
続けてマシンBにメモを書く。
2004/7/15 19:23:11
今度はマシンBにメモを書く。
```

プログラムや文章を書くために Emacs を常用している人なら、メモを書くためにわざわざ別のアプリケーションを起動する必要がなく、“Ctrl-x m”と入力するだけで

図3 メモの入力準備

```
(defconst hostname "bar")
(defun memo ()
  (interactive)
  (find-file (expand-file-name
              (concat "~/Memo." hostname)))
  (outline-mode)
  (setq outline-regexp " ")
  (defun outline-end-of-heading ()
    (if (re-search-forward
         outline-heading-end-regexp nil 'move)
        (progn
          (forward-line 1)
          (forward-char -1)
          ))
        )
  (hide-body)
  (goto-char 1)
  (insert " ")
  (insert-time)
  (insert "\n\n")
  (backward-char 1)
  )
(global-set-key "\C-xm" 'memo)
```

図4 掲示板形式の Web ページにメモを公開



ぐにメモ書きモードに移行できます。これなら、メモを気軽に書けるのではないのでしょうか。

メモをサーバーに転送する

作成したメモ (~ /Memo.bar) は、サーバーに送ってから日付ごとに分割し、日付と時刻で表現される別々のファイルとして保存してから Web ページを生成します。

私は、2001年12月号で紹介した「Wiki 掲示板システム」を使っているため、メモのそれぞれのエントリを掲示板への投稿と同様に扱い、掲示板形式でメモを閲覧できるようにしています。

このシステムは Wiki を用いた掲示板ですから、Web ページ上でメモを修正できるのはもちろん、携帯電話からもコマンドメール経由での読み書きが可能です。実際に使

ってみると、これはなかなか便利です。

おわりに

私は、数年前に Wiki 掲示板を作ってから、メモはすべて Wiki ページ上に書くようにしていました。たしかにこのシステムは手軽なのですが、Wiki ページを作成するにはタイトルを考える必要がありますし、メモの本文も編集モードに移行してから入力しなければなりません。そんなわけで、最近は、細かいアイデアや URL を書き留めるのがなんとなく億劫になっていました。しかし、今回紹介したシステムを導入してからはメモが苦にならなくなり、どんなに些細な情報でもすぐにメモとして書き留める習慣がついて、メモを書く頻度や量が格段に多くなりました。書いたメモは Wiki ページ上に置いているため、どこにいても参照できますし、携帯電話からの検索も可能なので重宝しています。

計算機上でメモを効率的に読み書きする方法については、ChangeLog 以外にもいろいろな工夫をしている人が多く、専用のメモシステムもさまざまなものが提案されています。今回のシステムでは普通のテキスト形式のメモファイルを Wiki に変換していますが、たとえば、Emacs 上で Wiki ライクな環境を実現し、メモをとるのに使う「howm (Hitori Otegaru Wiki Modoki)」⁶ というシステムが注目を集めています。あるいは、Chalow のように blog などと連動させた新しいシステムを作るのもおもしろそうです。

完璧なメモシステムの実現はそう簡単ではなさそうですが、運用経験をもとにさらに優れたシステムを考案したいと思っています。

(ますい・としゆき 産業技術総合研究所)

⁶ <http://howm.sourceforge.jp/index-j.html>